みんなで

のりこえよう通信

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長室から

令和　2　年　4月　27日　　NO.11

「あほ」と「ばか」

　学生時代の友人の話。

　彼は関東出身でした。一緒にうどん屋へ入った時のこと。お互い頼んだうどんがやってきて、さぁ食べようと割り箸を割った瞬間、その友人は脇にあった醤油の瓶を手にしました。

何をするのかと眺めていると、うどんの入った鉢のなかに、その醤油をどばどばと流し込み、出汁(だし)の色が真っ黒に。

ようやく食べ始めて、開口一番「うまい。これくらい辛くないと。関西の味は薄くてかなわないさ」と関東弁。

この友人、かつ丼を食べるときにも醤油をかけていました。

ところで、東京の街を歩いていると、ふいに不安な気持ちになったことがあります。慣れない風景やあまり好きではない東京言葉のイントネ－ションが原因の一つかもしれませんが、作家の司馬遼太郎も同じ気持ちになった時があるらしく、こんなことを言ってました。

大阪の街を歩くと遠くに必ず山を見ます。岸和田でしたら葛城山や紀伊山地、金剛山の遠景や二上山も目にします、市内なら生駒の山や六甲山系も見渡せると思います。大阪は、山に見守られている都市なのです。ところが、関東は広大な関東平野が山を遠ざけています。そんな日頃何気なく見ている景色の違いが、不安のもとになっているのかもしれません。

さて、その関東の友人にある時、「おまえは、あほか」と言いました。私としては、「あほ」の言葉の中に「好きよ」という気持ちをのせたつもりでした。

昔、よく「おまえらは、あほか。このあほ、あほ、あほ、あほ、あほ、あほ」と叫んでいましたが、それは「好き」を連呼しているつもりでした。

ところが、関東の友人にその細かな心遣いが伝わりません。

ある時、楽しく話しているとき、その友人がしみじみと私に言いました。

「しかし、お前は、立派なバカだなぁ」と。今度は私がむっとしました。

「あほ」と「ばか」の文化の違い。でも底に流れる気持ちは同じなんだな。